

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520131

研究課題名（和文） 寛文期から元禄期にかけての名所和歌に関する基礎的研究

研究課題名（英文） A basic study on meisho waka from the Kanbun era to the Genroku era (1661-1704)

研究代表者 綿抜 豊昭 (WATANUKI TOYOAKI)

筑波大学・大学院図書館情報メディア研究科・教授

研究者番号：30211676

研究成果の概要（和文）：

本研究初年度より、他の多くの歌枕資料の中での、高野幽山の『和歌名所追考』の位置づけを明確にしてきた。その成果の一つは、「江戸時代前期地誌・歌枕資料一覧」（科学研究費研究成果報告書、全 72 ページ）として、研究代表者と研究分担者の共編によりまとめた。本一覧は、高野幽山の『和歌名所追考』の異質性を際立たせる為に、成立前後の年代を含みこむ形で、明暦期から享保期に至るまでの、地誌や歌枕を網羅し、その所在を明確にしたものである。

研究成果の概要（英文）：

We have been clarifying the significance of *Waka meisho tsuiko* by Yuzan Takano within a range of utamakura literature since the first year of this project. One of the products of the study is *A bibliography of the topography and the utamakura literature in the early Edo period* (*Edo jidai zenki chishi utamakura shiryō ichiran* in Japanese), which is a report of Grants-in-Aid for Scientific Research (72p.), edited by the principal investigator and the co-investigators.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：近世文学、和歌文学、俳文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：歌枕、俳枕、芭蕉、高野幽山、和歌文学、俳文学、旅、地誌

1. 研究開始当初の背景

高野幽山(?～1702)は、本名は高野直重と

いい、後に竹内為入といった。江戸時代を代表する俳人である松尾芭蕉(1644～1694)とほぼ同時代に活動した俳人である。重頼門と

いわれる。また芭蕉と同じく伊賀にかかわりの深い人でもある。芭蕉は幽山の執筆を勤めたことがあるともされる。誹諧に詠まれた名所に「誹枕」という名称を与え、『誹枕』を延宝8年(1680)に刊行した人として知られてはおり、寛文期(1681~1673)に諸国を巡り、その成果として『和歌名所追考』を編んだことは知られていた。しかし、『和歌名所追考』の刊本はごく一部の国しか扱っておらず、神宮文庫に所蔵される写本が全国の和歌名所をとりあげていることや、その内容に特に注目した研究者は、研究代表者と研究分担者の他はいなかった。

研究代表者は、富山県立図書館の未整理資料を調査しているおりに、富山藩関係者が写した『和歌名所追考』にであり、その内容を詳しくみたところ、それが文献資料から名所を集めて編纂したものではなく、高野幽山自身が全国的に調査した結果をふまえたものであることに注目した。それは芭蕉の『奥の細道』の旅に先立つものであり、当時の名所・歌枕資料として貴重なものと考えたからである。そこで研究代表者は、諸本を調査したところ、岩手県立図書館にその地域の写本が所蔵され、また神宮文庫に全巻の写本が所蔵され、伊賀国など一部が刊行されることを知った。その後、基礎的研究として、富山県立図書館所蔵『和歌名所追考』の一部(第八十二、第一百、第一百十一、第一百十七、第一百十八)を翻刻していた。

また、研究分担者は高野幽山と藤堂家とのかかわりに着目していた。『和歌名所追考』が藤堂家と深くかかわり、そのかかわりが記された神宮文庫所蔵『和歌名所追考』に注目していた。藤堂家とかかわりのある地域のもので刊行されたのではないかと考えていた。また、その位置づけを論文として発表していた。

さらに研究代表者と研究分担者は、長崎健とともに『和歌名所追考』を基礎資料として越中の歌枕について述べた『越中の歌枕』を桂新書として刊行していた。それには『和歌名所追考』の越中国の箇所を翻刻も掲載している。

研究代表者と研究分担者はともに、全国の和歌名所をまとめた『和歌名所追考』が次の点で資料的価値が高いと考えた。

- 一、貴重な歌枕資料であること
- 二、松尾芭蕉に影響を与えた可能性がある資料であること

そこで『和歌名所追考』が、膨大な資料であることから、各々が個別に研究を進めるよりは、共同研究をしたほうが効率的で、研究が深まり、よい成果が出せるという考えにいたった。

2. 研究の目的

高野幽山は、『和歌名所追考』を編むにあたって参考にした、歌枕を編纂した歌学書といった文献資料は膨大な数にのぼる。『和歌名所追考』のはじめに、参考にした文献目録があげられているが、内容を調査していくと、それだけではないようである。

また『和歌名所追考』は、文献資料だけを用いて編纂されたのではなく、編者である高野幽山自身が実際に全国的に調査した結果もふまえて編まれたものである。

そこで、どのような文献資料を参考にしたのか、実際に現地調査で得た情報で記された箇所はどこなのか、藤堂家にかかわる箇所はあるとしたらそれはどこなのか、といった点を特に考慮に入れて、歌枕資料あるいは、地誌としての『和歌名所追考』を正確に把握する事を目的とする。また藤堂家がかかわっているとしたり、単に文化的興味であったのか、政治的な思惑があったのか、などについても考察を加えたい。

また『和歌名所追考』を、他の歌枕資料、地誌類と比較することにより、その特性について明らかにする。

こうした点を明らかにする事により、『誹枕』『和歌名所追考』を作り、芭蕉にも影響を与えた可能性がある高野幽山という人物の名所に対する考え方を総合的に把握する事も目的とする。

3. 研究の方法

まず『和歌名所追考』の引用文献の調査をし、特徴はないかなどの分析をする。

次にとりあげられた名所の調査し、特徴はないかなどの分析をする。

次に高野幽山の考えが述べられた「追考」部分の分析をする。

以上三点の分析をふまえて、全体の内容分析をする。

また同時進行で『和歌名所追考』の翻刻を進める。特に東北・北陸地方を中心に進め、芭蕉が『奥の細道』の旅で訪れた名所との比較ができるようにする。そして比較し、類似点等を考察する。

同じく同時進行で『和歌名所追考』の前後の時代の歌枕資料、地誌類を網羅的に把握する。具体的には、『国書総目録』などを利用して、現存する歌枕資料、地誌類の目録を作成する。このことによって相対的に位置づけられるようにする。そして比較し、類似点等を考察する。

4. 研究成果

『和歌名所追考』の内容分析のための基礎調査である引用文献調査についてはすでに終わっている。

その一部を、研究分担者が「和歌名所追考引書目録 その一」として公表している。

「後水尾院御集」「挙白集」といった、江戸時代初期になるものからも引用され、それまでに成った歌枕集にはない、新たな情報が加わっていることなどが明らかになった。

引き続き、公表していき、最後に引用文献は、何が多く引かれているかなどの特徴について述べる予定である。

とりあげられた「名所」の一覧も作成が完了しており、公表する予定である。

これについては、従来取り上げられていない地域も取り上げられているが参考歌がとりあげられることはなく、参考歌が附される地域に関しては、従来知られているものと大方変わらず、これといった特徴は見られない。

「追考」については、データ入力がおわっており、公表する予定である。

調査の結果、高野幽山が全国各地を訪れていることが確認された。具体的に、どの地を訪れたかについては公表する予定である。またもともと「歌枕」（和歌名所）はいわば「空想の地誌」であるのに対し、「誹枕」は実地体験に基づくものである。それが成功したかはともかく、『和歌名所追考』が実地体験に基づく歌枕集としての一面を持つことが明らかになった。

『和歌名所追考』の翻刻に関しては、東北および北陸地方は終わっている。

その一部である「秋田郡・山本郡」については、研究代表者が公表した。

これまで公表していない東北・北陸地方についても、今後、公表を続けていく予定である。

また芭蕉の『奥の細道』との旅と比較検討すると、芭蕉は幽山の訪れた地を訪れることが多いことがわかった。それが幽山の影響なのか、その地域を訪れる者であれば訪れるのが当然の名所で、幽山の影響はまったくないのかなどについての考察は今後の課題である。

また芭蕉と幽山の比較検討のため、加賀国の調査を詳しくした関連で、研究代表者が「山中温泉「芭蕉堂」の建立」を著すなどした。

『和歌名所追考』の前後の時代の歌枕資料、地誌類に関しては、研究代表者・研究分担者との共編により、研究報告書のかたちで、「貞享期から享保期までの歌枕資料一覧」を作成した。これは『国書総目録』『古典籍総合目録』などを参考にして、関連書を整理、所蔵を明らかにしたものである。

資料数が膨大なため、今回はそれぞれの内容まで調査することはかなわなかった。

今後これを基礎資料として、歌枕資料、地誌類を調査、内容を分析するなどし、神宮文庫本『和歌名所追考』と比較検討し、高野幽山の膨大な地誌資料を正確に位置づける予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

綿抜豊昭，「山中温泉「芭蕉堂」の建立」、『図書館情報メディア研究』（筑波大学図書館情報メディア研究科），2010年9月，45-55，査読有り

綿抜豊昭，「和歌名所追考 秋田郡山本郡」、『人文資料研究』第1号（人文資料学会），2008年12月，22-26，査読無し

岡本聡，「秋風別墅考」、『連歌俳諧研究』第120号（俳文学会），2011年3月，査読有り

岡本聡，「堀杏庵作徳川義直室春姫追悼歌文をめぐって一付翻刻[春姫追悼歌文]」、『近世文学研究』第2号（文学史探究の会），2010年7月，査読無し

岡本聡，「和歌名所追考引書目録 その一」、『人文資料研究』第3号（人文資料学会），2010年3月，21-22，査読無し

〔学会発表〕（計1件）

岡本聡，「秋風別墅考」，俳文学会全国大会（於四国大学），2010年10月14日

〔図書〕（計1件）

綿抜豊昭，『山中温泉の俳諧』（単著），芭蕉の館，2010年2月25日，1-32

6. 研究組織

(1) 研究代表者 綿拔 豊昭
(WATANUKI TOYOAKI)

筑波大学

研究者番号：30211676

(2) 研究分担者 岡本 聡
(OKAMOTO SATOSI)

中部大学人文学部

研究者番号：90280081